

機関番号：32617

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008 ～2010

課題番号：20402041

研究課題名（和文） 多文化社会ハワイにおける沖縄系、日系、中国系、コリア系の民族間交渉と文化創生

研究課題名（英文） Inter-ethnic Negotiations and Cultural Co-creations in Multicultural Hawaii: Case Studies in Okinawan, Japanese, Chinese and Korean Communities.

研究代表者

白水 繁彦（ SHIRAMIZU SHIGEHICO ）

駒澤大学・グローバル・メディア・スタディーズ学部・教授

研究者番号：80095942

研究成果の概要（和文）：ハワイの沖縄系、日系、中国系、コリア系のコミュニティに入り込み、3年間、主として民族祭の参与観察およびインタビューを行った。その結果、(1)戦後ハワイでは次々と大きな民族祭が催されるようになったこと。(2)そしてそれがハワイの新たな文化として定着していること。(3)その背景には民族間の緊張があることなどを明らかにした。たとえば沖縄系は、日系と深い関係を続けながらも日系との差異を強調するオキナワンスタイルの民族祭を形成していった。なお、東北地方太平洋沖地震のために繰り越した現地調査を 2011 年夏に実施、所期の目的を達した。

研究成果の概要（英文）：We conducted field works in Hawaii for 3 years, especially in the ethnic festival seasons of Okinawan, Japanese, Chinese, and Korean communities. Our findings are: (1) the major ethnic groups in Hawaii had been starting up their ethnic festivals after W.W.II, (2) each festival had been gradually regarded as a part of Hawaii's local culture, (3) some strained relations had been in existence among the groups, which motivated them to start the festivals.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2009年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2010年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
年度			
年度			
総計	12,800,000	3,840,000	16,640,000

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：ハワイ、民族関係、文化変容、民族祭、文化創生、ローカル化、緊張関係、アイデンティティ

1. 研究開始当初の背景

- (1) 研究代表者が 1978 年以来ハワイに通い数年のうちにハワイのイメージとリアリティーの違いに大きな衝撃を受けたこと。
- (2) 20 年余りの観察により日系や沖縄系の人びとの文化活動をリアルタイムで

観察してきたこと。

- (3) 若い研究者のなかにハワイの各民族の文化の変化に注目して地道にフィールドワークを重ねる人が増えてきたこと。
- (3) かれらを糾合して共同研究を行えば、ハワイの主要な民族集団がカバーでき

ること。

2. 研究の目的

多文化社会といわれるハワイのリアリティーを明らかにすること。とくに(1)多様な文化が花開くハワイだが、それぞれの民族がどのような過程を経て、こんにちのような民族関係を取り結ぶようになったか、(2)こんにち見られる各民族の文化はどのような過程で出来上がってきたのか。(3)多様な民族背景を持つ人びとはどのような交渉を経てハワイに「適応」するのか。

3. 研究の方法

(1) 民族祭などのイベントにボランティアとして参加しながら情報を得る参与観察法

(2) ラポールの成立した人への深層面接法

(3) 多くの人びとの意見や考え方を訊く質問紙調査法

(4) 新聞や雑誌、個人の記録などから情報を得る文献調査など

4. 研究成果

(1) 沖縄系コミュニティが80年代から極めて大きなプレゼンスを示すようになった背景の解明

(2) ハワイ系先住民と沖縄系との交渉、アイデンティティの模索の実態解明

(3) 中国系がハワイのなかでメジャーな民族として地位を獲得していくプロセスの解明

(4) コリア系が存在意義を模索し、活動を活発化していく過程の解明

(5) 沖縄県出身のアメラジアン(アメリカ人と日本人・沖縄人の両親のもとに生まれた人)のハワイ社会への適応の実態の解明

◎インパクト

(1) ハワイが「太平洋の楽園」という標語で語られることが多いだけに、われわれが明らかにしてきたその実態との落差は多くの社会学者の耳目を集めることになった。とくに若い研究者のなかにハワイに留学して参与観察に従事する人が増えた。

(2) とくに、日系の陰に隠れてインビジブルな存在だった沖縄系(ウチナーンチュ)が大きな存在を示すようになったプロセスを解明したことで、少数民族のなかの少数民

族の実態解明に向かう人が出てきている。

◎今後の展望

ハワイの文化の形成と変化をより広い、より長いスパンで解明する必要がある。たとえば先住民の文化を基層としながらも、日系文化が共通の文化になっていくプロセスの解明や、ハワイ文化の基層の一部をなすと思われるプランテーション文化の形成過程の解明など。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計11件)

①白水繁彦「エスニック・メディアと言語」『日本語学』2009年5月(臨時増刊号Vol.28-6)明治書院発売、pp.163-172.査読無.

②白水繁彦「メディアとローカル化:ハワイのコリア語メディアと主流メディアの事例から」『Journal of Global Media Studies』Vol.6,2009.pp.9-25 (2010年3月刊行)査読無.

③白水繁彦「移民周年祭研究序説:ハワイ日系百年祭の事例から」『移民研究年報』第15号(2009年3月)pp.27-49. 査読有.

④城田愛「『ネイティヴ』と『ノン・ネイティヴ』の対立をこえて:先住ハワイアンと移民にルーツをもつ人類学者の実践から」李仁子・金谷美和編著『東北アジア研究センター叢書第34号 自己言及的民族誌の可能性』東北大学東北アジア研究センター(2010)pp.49-72. 査読無.

⑤野入直美「『アメラジアンという視点』社会理論・動態研究所『理論と動態』第2号(2009)pp.18-39. 査読有.

⑥白水繁彦「コミュニティ・ジャーナリストの志向と役割:ディアスポラ変容エージェントのメディアグラフィー」『ソシオロジスト』(武蔵大学社会学会)No.10(2008)pp.90-120, 査読無.

⑦李里花「ハワイ戒厳令下のコリアン移民のナショナルリズム:<敵性外国人>から<友好的外国人>への語りの形成」『アメリカ研究』42号(2008)pp.137-154.査読有.

⑧李里花「ハワイ・コリアン移民のナショナルな語りの形成:太平洋戦争下で「日本人」に分類されたコリアン移民の処遇問題を中心に」『史潮』

〔学会発表〕(計11件)

- ①中野克彦、「エスニック・メディアと移民言語：在日中国人の事例」多言語化現象研究会 第二回研究大会、2011年3月26日、関西学院大学.
- ②中野克彦、「ハワイにおけるフィリピン系・中国系のエスニック組織」マイグレーション研究会、2010年7月10日、阪南大学.
- ③城田愛、「踊りと音楽にみる移民と先住民系の文化交渉の動き：多文化社会ハワイにおけるオキナワン・アイデンティティ創出の揺らぎ」琉球大学国際シンポジウム「人の移動と21世紀のグローバル社会 コンタクトゾーンとしての島嶼における文化現象：沖縄と太平洋諸島、琉球と東アジア」2009年11月28日、琉球大学.
- ④野入直美、「世界のウチナーンチュ大会」と沖縄県系ネットワーク(1)ーハワイとブラジルの比較を中心に」、日本移民学会第19回年次大会、2009年7月5日、同志社大学.
- ⑤中野克彦、「ハワイにおける華人のエスニック・ネットワークと中国」日本移民学会19回年次大会、2009年7月4日、同志社大学.
- ⑥城田愛、「ハワイにおける沖縄系移民と先住民系の文化交渉のダイナミズム」学会名：日本移民学会第19回年次大会、2009年7月4日、同志社大学.
- ⑦Naomi Noiri, Amerasians in Okinawa: Part of "Champuru"?, Symposium of Center of Okinawan Studies, March 21, 2009, University of Hawaii, Manoa.
- ⑧中野克彦、「ハワイにおける中国系移民の文化変容：エスニック・フェスティバル「水仙祭」の分析を中心に」マイグレーション研究会、2009年3月7日、京都女子大学.
- ⑨野入直美、「中南米におけるウチナーンチュのアイデンティティとネットワーク」、第2回世界ウチナーンチュ会議・ブラジル沖縄移民100周年記念フォーラム「移民百年とウチナーンチュ」、2008年8月25日、ホテルパウルスタ、サンパウロ.
- ⑩白水繁彦、「日系周年祭研究事始め」、日本移民学会第18回年次大会、2008年6月28日、東京学芸大学
- ⑪城田愛、「『ネイティヴ』と『ノン・ネイティヴ』の対立をこえて」日本文化人類学会、2008年6月1日、京都大学.

〔図書〕(計17件)

- ①白水繁彦編『多文化社会ハワイのリアリティー：民族間交渉と文化創生』御茶の水書房、2011、183.
- ②中野克彦「ハワイにおける中国系移民の民族祭：主流社会との葛藤と交渉のなかで」白水繁彦編『多文化社会ハワイのリアリティー：民族間交渉と文化創生』御茶の水書房、2011、87-114.
- ③城田愛「フラにみる多文化社会ハワイのポリフォニー：聖地、観光地、主権回復運動で共振する祈りと誇り」白水繁彦編『多文化社会ハワイのリアリティー：民族間交渉と文化創生』御茶の水書房、2011、49-86.
- ④李里花「コリア系移民の民族表象と文化創造：「民族」にこだわる理由」白水繁彦編『多文化社会ハワイのリアリティー：民族間交渉と文化創生』御茶の水書房、2011、115-144.
- ⑤野入直美「ディアスポラと"ローカル"」白水繁彦編『多文化社会ハワイのリアリティー：民族間交渉と文化創生』御茶の水書房、2011、145-180.
- ⑥白水繁彦『イノベーション社会学』御茶の水書房、2011、194.
- ⑦城田愛「踊りと音楽にみる移民と先住民たちの文化交渉の動き：多文化社会ハワイにおけるオキナワン・アイデンティティ創出の揺らぎ」石原昌英・喜納育江・山城新編著『沖縄・ハワイ：コンタクト・ゾーンとしての島嶼』彩流社、2010、97-126.
- ⑧白水繁彦「エスニック・マイノリティとメディア」浜田純一・田島泰彦・桂敬一編『新訂 新聞学』日本評論社、2009、406-417.
- ⑨李里花「Portrayal of Korean Americans in South Korea, 1965-2005: Constructing the "Korean-ness" of the Oversea Koreans」韓国国際財団報告書、2009、3-20.
- ⑩白水繁彦編『移動する人びと、変容する文化：グローバリゼーションとアイデンティティ』御茶の水書房、2008、190.
- ⑪中野克彦「ハワイにおける中国系コミュニティの文化変容：エスニック・フェスティバルを中心に」白水繁彦編『移動する人びと、変容する文化：グローバリゼーションとアイデンティティ』御茶の水書房、2008、97-113.
- ⑫城田愛「オキナワン・ハワイアン・スタイル：ハワイにおける沖縄系移民と先住民文化

の交差」白水繁彦編『移動する人びと、変容する文化：グローバリゼーションとアイデンティティ』御茶の水書房、2008、25-48.

⑬野入直美「ハワイのアメラジアン：＜越境＞と＜ローカル化＞をつなぐアイデンティティ」白水繁彦編『移動する人びと、変容する文化－グローバリゼーションとアイデンティティ』御茶の水書房、2008、73-95.

〔その他〕

ホームページ等

白水繁彦

<http://www.zd.em-net.ne.jp/~shige/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

白水 繁彦 (SHIRAMIZU SHIGEHICO)

駒澤大学・グローバル・メディア・スタディーズ学部・教授

研究者番号：80095942

(2) 研究分担者

中野 克彦 (NAKANO KATSUHIKO)

立命館大学・国際関係学部・講師

研究者番号：80449529

城田 愛 (SHIROTA CHIKA)

大分県立大学芸術文化短期大学・国際文化学科・講師

研究者番号：80425389

野入 直美 (NOIRI NAOMI)

琉球大学・法文学部・准教授

研究者番号：90264465

李 里花 (LEE RIKI)

LEC 東京リーガルマインド大学・総合キャリア学部・講師

研究者番号：50468956